

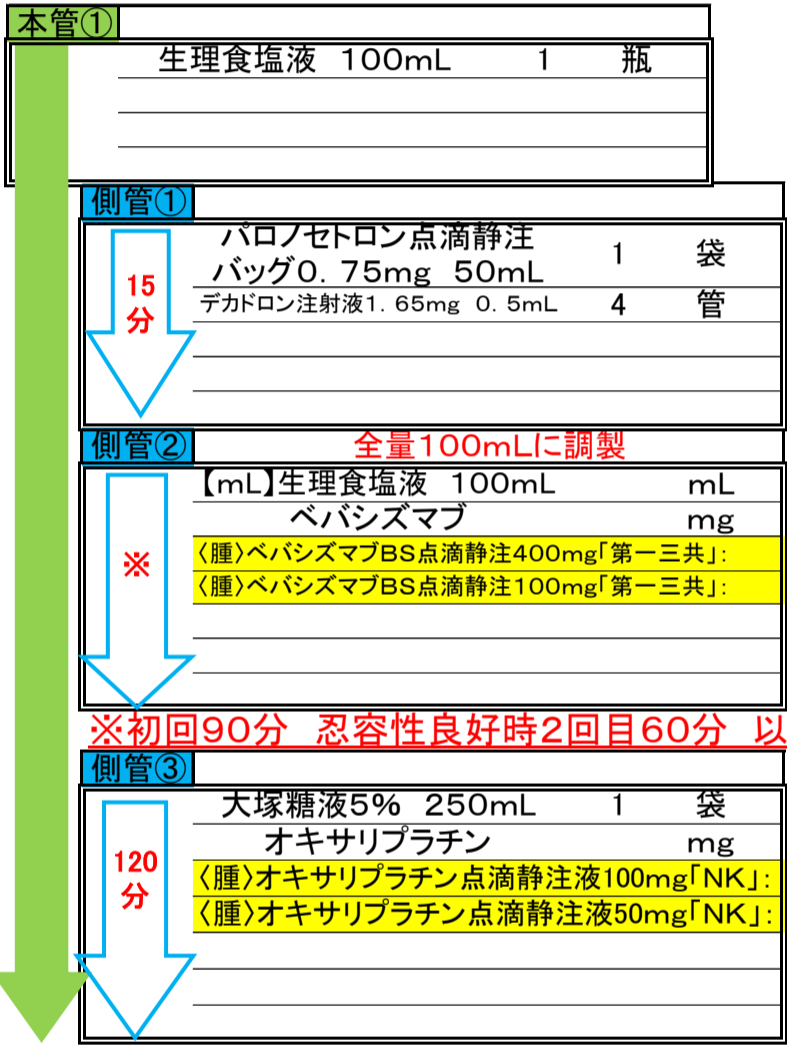
患者番号	性別	身長	cm	
カナ氏名	生年月日	体重	kg	指示医
患者氏名	年齢	体表面積	m ²	

Rp)ベバシズマブ(アバステン) 7.5 mg/kg 点滴静注 day 1
 オキサリプラチン 130 mg/m² 点滴静注 day 1 3週毎
 ゼローダ ※用量は下記参照 内服(1日2回) day 1(夕)~15(朝)

※ゼロダ用量:体表面積に応じて調整 [1日2回服用]
 1.36m²未満 1,200mg(4T)/body /回
 1.36m²以上1.66m²未満 1,500mg(5T)/body /回
 1.66m²以上1.96m²未満 1,800mg(6T)/body /回
 1.96m²以上 2,100mg(7T)/body /回

レジメンコメント1
レジメンコメント2

★ベバシズマブ投与期間中、以下の初期症状に注意すること(※緊急対応を要する副作用の可能性)
 ・突然起こる強い腹痛
 ・下血
 ・喀血
 ・突発性意識障害
 ・神経症状・頭痛・嘔気嘔吐・めまい
 ・胸痛(胸部圧迫感)
 ・呼吸困難・咳嗽
 ・下肢の腫脹、疼痛、色調変化
 ・急激又は著しい血圧上昇



※初回90分 忍容性良好時2回目60分 以降30分で投与可

★ゼロダ投与に伴う手足症候群予防対策
 <初回投与時より開始>
 ノイロビタン錠 2T 2×内服(休薬期間も継続)
 保湿クリーム 塗布 (1日5回以上頻回使用)

<実施時の注意>

- オキサリプラチン
 漏出時:直ちに投与を中止し薬剤を吸引、洗浄し、ステロイドの局注、ステロイドの外用剤で対処する。オキサリプラチン投与時は寒冷刺激により末梢神経障害が誘発されるため患部の冷却は避ける。
 アルミニウムとの接触により分解されることが報告されているため、アルミニウムが用いられている機器(注射針等)は使用しないこと。
- ベバシズマブ
 高血圧があらわれることがあるので、投与期間中は血圧を定期的に測定し、適切な処置を行うこと。
 蛋白尿があらわれることがあるので、投与期間中は尿蛋白を定期的に検査することが望ましい。

<用量規制因子>

- Day1投与開始前に、血小板数75,000/mm³以上、好中球数1,500/mm³以上であること。
- オキサリプラチン
 前回の投与後に発現した有害事象がGrade3以上の場合は1回目発現時:100mg/m²、2回目発現時:85mg/m²に減量する。
 - ゼロダ
 手足症候群Grade2以上発現時:直ちに休薬。手足の安静を保ち、局所治療を行うこと。Grade1以下に回復後、投与を再開する。2000mg/m²/日→1500mg/m²/日→1000mg/m²/日

<注意すべき副作用>

- 過敏症 ●食欲不振、吐き気 ●手足のしびれ ●口内炎 ●下痢 ●手足症候群 ●色素沈着
- 脱毛(頭髪、まつ毛、眉毛など) ●白血球減少 ●赤血球減少(貧血) ●血小板減少 ●肝機能低下